

## 第5学年 国語科学習指導案

対象 第5学年1組 28名

会場 第5学年1組教室

授業者 松島 響子

### 1 単元名 古典芸能の世界——語りで伝える

### 2 単元の目標

古典について解説した文章を読むことを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。

### 3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・落語に興味をもち、昔の人のものの見方や感じ方を理解している。	・小唄の演じ方について、グループで話し合い、考えている。	・落語に興味をもち、小唄をどう演じるのかを進んで考えようとしている。
活動に即した具体的な評価規準	①「初天神」を視聴し、落語に興味を持っている。 ②「初天神」を視聴し、声の調子、顔の表情、しぐさ、話に落ちがあること、時代背景を理解している。	①しぐさ、声の調子、顔の表情など、どのように小唄を演じるかを考えている。 ②グループごとに表現方法を話し合い、考えている。	①小唄をどのように工夫して演じるのか、進んで考えようとしている。

### 4 単元設定の理由

#### (1) 単元観

落語は、見ること、聞くこと、演じられることで享受されてきた伝統文化である。『竹取物語』など読むことが中心となる古典作品とは違い、実際に見たり聞いたり演じたりするなど、諸感覚を通じた学習をすることによって、児童を伝統的な言語文化に親しませることをねらいとしている。ほとんどの部分が会話文で展開されていくのが落語の特徴であり、会話の中に表れる、江戸庶民の独特の言葉づかいや間の取り方、早口な言い回しなどを聞くことで、落語に興味をもってもらいたい。また、自分たちで声に出して読むことで、個性的な話しぶりや歯切れのよい、はっきりした話しぶりを経験することが、今後の音読の幅をひろげることにもつながると考える。

#### (2) 児童観

5年生に入ってから、古典作品として『竹取物語』や『平家物語』『枕草子』などを学習している。現代とは違う言葉づかいに戸惑いつつも、知らない言葉があると、「意味が知りたい」という

思いが強く、辞書などで進んで言葉を調べる姿勢が見られた。落語は初めての学習だが、近年子ども向けの教育番組で落語が扱われていて、落語とはどのようなものかを知っている児童も多いと思われる。そのため、抵抗感なく学習に入ることができると思う。しかし、今回、演技方を考え、発表する、という活動を入れているが、人前で表現することが苦手な児童が多い。意図的に教師側でグループピングを工夫するなど、児童が表現しやすい場づくりを意識して設定していきたい。

### (3) 教材観

本単元の1時間目で扱う「初天神」は天満宮の縁日が舞台である。父親と金坊が主な登場人物で、父親は金坊に「あれ買って、これ買って」と言わない約束で縁日に金坊を連れて行くことにする。ところが、露店が並んでいるのを見ると「あれ買え」「これ買え」と金坊は言い始める。父親は「だからお前なんか連れて来なけりゃよかった」と言いながらも、仕方ないので団子を買ってあげることにする。蜜がついている団子を選んだところ、蜜が落ちそうだったため、落とすまいと父親は一生懸命に蜜をなめ続けてしまう。やがて、蜜はなくなり団子だけになってしまう。父親は「はい」と金坊に団子を差し出すものの、「いやだよ、こんな団子！こんななら、おとつあんなんて、連れてこなければよかった」という落ちがある内容である。初天神では、様々なしぐさが出てくるので、落語への入門として適した教材と考える。

落語の魅力は江戸時代特有の言葉づかい、しぐさ、話の落ちであると考え。しかしながら、落語を子どもが演じることは難しい。そこで第二時からは小噺を教材として使用する。短い文の中に落ちがある小噺は、子ども自身も演じやすいと考える。小噺の内容は現代的な物を選んだ。それは演じる子ども自身が内容を理解した上で、演じるための配慮である。演じながらしぐさや声の調子を変えろという落語の良さを取り入れていく。そのためにも、班ごとの練習でまずは繰り返し読む練習を多く取り入れさせるなど、落語の魅力に気付かせられるよう、子どもたちに働きかけていきたい。

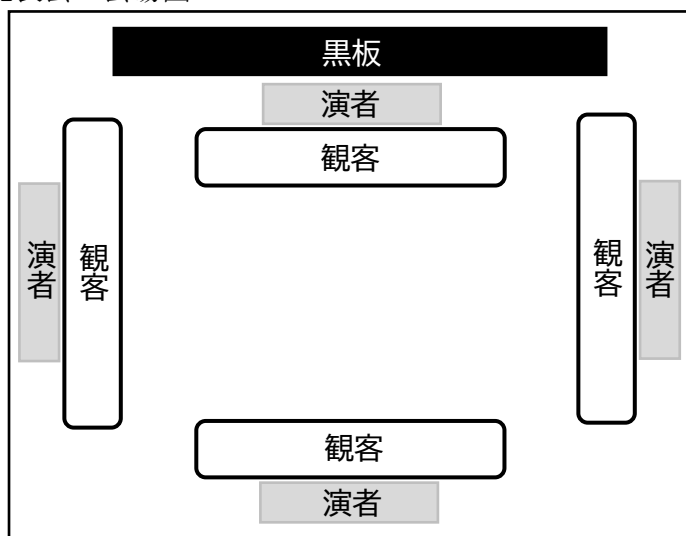
## 5 単元の指導計画と評価計画（全3時間）※評価の赤字はその時間の重点

時	目標（●）と主な活動（○）	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	評価規準[方法]
1	<p>●落語の特徴を知る。</p> <p>○単元・本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「初天神」を聞いて、落語の特徴を知ろう。</div> <p>○「初天神」を動画で視聴する。</p> <p>○落語には落ちがあるということを確認したうえで、「初天神」のあらすじと落ちを全体でおさえる。</p> <p>○ワークシートに落語の特徴について記入する （声の調子、顔の表情、しぐさ、話に落ちがある、一人で何役も演じる。江戸時代、庶民の娯楽としてあつ。おもしろいと思うポイントは昔も今も変わらない）</p> <p>○ワークシートに書いたことを全体で共有する。</p>	① ②			<p>「初天神」を視聴し、声の調子、顔の表情、しぐさ、話に落ちがあること、時代背景を理解している。</p> <p><b>【ワークシート】</b></p>

	<p>○今後の流れの見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小噺を各々が演じ、その発表会を3時間目に行う。</li> <li>・小噺を演じるのは一人、どう演じるのか表現の工夫を考えるのは班ごと（班は3～4人）</li> <li>・班のメンバーは学級の班とは異なる。</li> <li>・当日の発表の流れ（ステージが四つ設置され、一人一人演じていく）</li> <li>・使う物は、手ぬぐいか扇子のどちらか。どちらの道具を使うことができるかは、くじ引きで決める。</li> <li>・工夫を考える際の条件（扇子もしくは手ぬぐいを用いてオリジナルのしぐさを入れる）</li> </ul> <p>○演じる小噺を発表し、落ちを確認する（現代もの3つ）</p> <p>○3～4人のグループを発表する。</p> <p>○どの小噺を演じるか班ごとに考える。</p> <p>○小噺で使う小道具をくじ引きで決める。</p> <p>○本時の振り返りを記入する。</p>				
2 本 時	<p>●「小噺」の演じ方を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">小噺の演じ方を考えよう。</div> <p>○前時でおさえた、落語の特徴をふり返る。</p> <p>○個人でどのような表現を入れられそうか考える。</p> <p>○表現方法を班で考えていくうえで、大切にしたいことを確認する（相手の意見を否定しない、発言する人が偏らないようにする、なぜそう考えたのか理由を聞く）。</p> <p>○班ごとに、前時で選んだ小噺をどのように演じていくか、発表の条件に則りながら考える（迷っているグループにはヒントを出す）。</p> <p>※ヒント:ワークシートへの記入方法を説明する際に記入例を出すのだが、どう考えていけばいいのか困っている班には、ヒントとして記入例を渡す。記入例には、授業で扱う小噺とは別の小噺が掲載しており、この小噺だったらこう演じると教師が考えたものが掲載されている。</p> <p>○演じ方が決まったところから練習を行う。</p> <p>○本時の振り返りを記入する。</p>		①	①	しぐさ、声の調子、顔の表情など、どのように小噺を演じるかを考えている。【ワークシート】グループごとに表現方法を話し合い、考えている。【発言内容や行動観察】
3	<p>●小噺を班ごとに発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">小噺発表会をしよう。</div> <p>○本時の流れを確認する。</p> <p>○教室内に四つのステージを設置し、グループごとに前で発表する（下記参照）。発表が終わったら感想を伝える（各グループにつき一人ずつ）。</p> <p>○この人に発表してもらいたい、発表したいという人に全体で発表させる。</p> <p>○落語の良さについて全体で確認する（昔の人がおもしろいと思っていたものを知ることができる、昔も今も</p>	①			友達の発表を見て、落語に興味をもち、昔の人のものの見方や感じ方を理解している。【コラボノート】

おもしろいと思うポイントは同じということ)。  
○本時の振り返りを記入する。

発表会の会場図



## 7 研究主題との関連

本研究の「働かせる5つの力」及び「子どもに示す4つの力」の関係は以下の通りである。

5つの力	4つの力
自己認知力	自分の考えをもつ力
自己決定力	
自己表明力	自分を表現する力
対話力	人を大切にする力
共創力	チャレンジする力

この授業で主に児童が働かせる力・・・共創力（チャレンジする力）

- ①小喃の表現方法を考え、どのように表現するのか班で考える姿。
- ②小喃の練習をしていく中で、班で考えた表現方法をアレンジしたり変えていったりする際、自分たちで折り合いをつけて考える姿。

### 学級経営分科会

#### (ア) 日々の振り返り

6月から5年1組では、日々の振り返りとして「対話日記」に取り組んでいる。本单元内でも毎時の振り返りは行なっていくが、対話日記に記入された内容で、本单元でも生かせることはないか、注意しながら見ていきたい。例えば、表現方法を話し合う2時間目の活動後、対話日記に本授業について書かれているかもしれない。もし「うまくグループ内で発言できなかったけど、本当はこうしたかった」という振り返りがあれば、次時に入る前にそのグループにフォローを入れたり、「〇〇さんのアイデアがよかった」という振り返りがあれば、そのアイデアを授業で取り上げ、対話日記の内容を本授業にも活用していきたい。

### 学習分科会

#### (イ) 毎時の振り返り

題材を通して振り返りができるワークシートを作成し毎時何を学んだのか、学習感想を書き、導入部で児童の感想の内容の発表を行うことで、前時までの授業の様子を振り返ることができるようにする。

#### (ウ) 課題探究（対話を通して課題を深める時間）

小喃をどう表現するかを班でまとめていく必要がある。友達と自分の意見が違ったとき、お互いにどう折り合いをつけて表現方法を考えていくのか、また発言をする人が偏っていないか、相手の意見を否定せずに受け入れているのかなど、対話をする上で大切なことを事前に周知した上で、話し合いの場を設定していきたい。また、話し合うためには自分の意見をもつことが大切である。個人で小喃の表現方法を考える時間もしっかりと取っていきたい。

#### (エ) 使う道具の限定

本来、落語では扇子と手ぬぐいの両方を用いてしぐさを表現していく。しかし、今回は使うこ

とのできる道具を扇子か手ぬぐいのどちらかとした。片方の道具しかない制限のかかった状況でどのようにしぐさをまとめていくのかを見ていきたい。また、このように条件を加えることにより、児童同士がより活発なコミュニケーションをとり、共創力を育むことができるのではないかと考える。

8 本時（全3時間中の第2時）

(1) 本時のねらい

小唄の表現方法を考え、どのように表現するのか班で考えよう。

(2) 学習活動過程

	◎児童の活動 ○指導上の留意点 ☆国語科における評価	働かせる力	●本研究における指導の手だての具体 ★本研究における評価
導入 5分	◎本時のめあてと本時の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">小唄の演じ方を班で考えよう。</div> ◎前時で押さえた、落語の特徴や時代背景を振り返る。 ○落語の特徴：声の調子、顔の表情、しぐさ、話に落ちがある、一人で何役も演じる。 時代背景：江戸時代、庶民の娯楽としてあった、おもしろいと思うポイントは昔も今も変わらない。		(イ) 児童の振り返りをもとに前時の活動の様子を想起することができるようにする。
展開 35分	◎小唄の表現方法を個人で考える。 ○表現方法を考えるうえでの条件を確認する（扇子かてぬぐいを用いてしぐさを入れる）。 ○小唄の内容を載せたワークシートを用意しておき、ワークシートに表現方法を記入できるようにする。 ☆しぐさ、声の調子、顔の表情など、どのように小唄を演じるかを考えている。 ◎表現方法を班でまとめていくうえで、大切にしたいことを確認する（相手の意見を否定しない、発言する人が偏らないようにするなど）。 ◎班ごとに個人で考えた表現方法を共有し、まとめる。 ○表現方法に迷っている班のために、ヒント※を配布する。 ※どう考えていけばいいのか困っている班には、ヒントとして記入例を渡す。記入例には、授業で扱う小唄とは別の小唄が掲載しており、この小唄だったらこう演じると教師が考えたものが掲載されている。 ○机間指導しながら、表現方法をまとめるのにつまづいている班のサポートに入る。 ◎班でまとめた表現方法をワークシートに記入する。 ☆グループごとに表現方法を話し合い、考えている。 ◎演じ方が決まった班から練習を行う。 ○扇子とてぬぐいを一つの班の一つずつ渡す。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自己認知力</div> <div style="text-align: center; font-size: 2em;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">共創力</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">★小唄の表現方法を考え、どのように表現するのか班で考える姿。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">★小唄の練習の中で、班で考えた表現方法をアレンジしたり変えていったりする際、自分たちで折り合いをつけて考える姿。</div> <div style="text-align: center; font-size: 2em;">↓</div>	(ウ) 小唄をどう表現していくのか対話を通して考えることができるように班を回り適宜声がけをする。 (エ) 限られた道具を用いて、どのようにしぐさを取り入れるか、助言をする。
まとめ 5分	◎本時の学習を振り返る。 ○振り返りカードにその時間に学んだことを記入していく。 ☆落語に興味をもち、小唄をどう工夫して演じるのかを進んで考えようとしている。 【ワークシート】		(イ) 題材を通して自分の変容がわかるようにする。

### (3) 板書計画

古典芸能の世界——語りで伝える
めあて
小唄の演じ方を班で考えよう
落語の特徴
・しぐさ
・話し口調
・表情
今日の流れ
①小唄をどのように工夫して読んだら おもしろいか、まずは個人で考える ※せんすか手ぬぐいを使ってしぐさを入 れる
②個人で考えたものをグループで発表 し、一つにまとめる
③台本にまとめ終わった班から練習を行 う
④今日のふり返りを書く

### (4) 小唄の内容

#### 「カレンダー」

子ども「すみません、すみませーん！」

店員 「はい、何です？ ぼうや。」

子ども「あの、新しいカレンダーが欲しいんですけど。」

店員 「ふーん、どんなカレンダーがいいんだい？」

子ども「はい、なるべく休みの多いやつにしてください。」

#### 「読書」

女1 「読書はお好きですか？」

女2 「はい、読書、大好きです。」

女1 「ロミオとジュリエットは読みましたか？」

女2 「はい、ロミオは読みましたが、ジュリエットはまだです。」

#### 「神様」

学生「神様、私の日本語を上手にしてください。」

神様「何でもするか？」

学生「はい、何でもします」

神様「ちゃんと勉強しなさい！」

※「神様」は、演じたいグループがいなかったため、表現の工夫をどう考えたらいいか、困っているグループへの例示として使用しています。